

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人梓友会	代表者	川島 優幸	法人・事業所の 特徴	下田市で唯一の小規模多機能型事業所で、下田市全域を営業範囲として対応可能である。 開設当初から、地域の方と「健康で生活を送る」をテーマに講義や活動を「健康プラザ」行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護みくらの里	管理者	平山 悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	0人	1人	1人	0人	1人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認		日程調整ができず、運営推進委員の参加依頼できなかった スタッフの意見、全員での取組み等について、外部の方に活動をわかりやすく示す方法に検討が必要	職員の自己評価により、改善点や弱点が明確化され、各自今後の課題や自己目標の意識づけとなった	前年度で行えなかった活動について、開催実施について取り組んでいく
B. 事業所のしつらえ・環境	健康プラザや運営推進会議等の折に施設見学会を設けていく 実際に活動している様子を見ていただくことで、スタッフが緊張感を持てるように工夫する	施設見学について、運営推進委員会の際に見学会を設けた。 自施設の雰囲気を実際に見ていただく機会を作れた		定期的に施設の様子を見ていただくことで、スタッフが緊張感を持てるよう工夫する
C. 事業所と地域のかかわり	健康プラザの継続、地域での防災訓練等、地域の方とのつながりを重視した活動を行っていく	業務都合により、健康プラザの開催を行えなかった。 本来のサービス提供と並行して行える工夫が必要	サービス提供に支障の出ない範囲での、地域の方との集い事業の展開	地域の方とのつながりを重視した活動を、サービス提供と並行して行っていく
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方が集まれる沙龙的な活動を続けることで、多世代交流が図れるよう努める	スタッフの地域とのかかわりが弱く、苦手と感じている その反面、季節行事等では地域に出向くことが多い	日々行っている利用者個々の暮らしの支援も「地域に出向く」ととらえて考えてみては…	地域の方が集まれる沙龙的な活動の継続により、多世代交流を図る 利用者の地域生活を通し、地域とともに活動する
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の情報を共有し、地域課題解決に向けた貢献ができるように努める	運営推進会議での活動報告で、事業の内容や状況がわかる 課題について提案、討議が進んでいるが、その場で終わっている感じがする	地域とのかかわりについての議案が主となっていたため、今後は実際の事例について触れることで、小規模多機能の活動がイメージしやすくなるのでは…	地域の情報を共有し、地域課題解決に向けた貢献に努める 事例検討等を通して、小規模多機能の活動の見える化を図る
F. 事業所の防災・災害対策	地域と協働の防災訓練の実施を検討する	地域と協働の防災についての取組みは難しいところがあり実施困難	避難の際に課題となることに対する改善策を考えてはどうか…	地域と協働して防災について考える機会を作る